

## 4 必ず指導する基本的事項

### 1 生活安全

区分	目標	内容
I-1 登下校時の安全	登下校時に遭遇する犯罪や危険について理解し、安全に行動できるようにする。	① 友達と一緒に登下校すること。 ② 防犯ブザーを鳴らし、点検すること。 ③ 登下校時、どこがどのようなときに危険か確認すること。 ④ 電車やバスに乗るときは、痴漢・すり等に注意すること。
I-2 校内での安全	校内で起こる事故等の危険について理解し、安全に行動できるようにする。	① 自分の身の回りを整えること。 ② 活動するときや遊ぶときのきまりや約束を守ること。 ③ 道具や遊具などを大切に、正しい使い方を知ること。 ④ 廊下や階段の歩き方、運動場やプールでの運動の仕方など施設の安全な使い方について確認すること。 ⑤ 学校が定めた「不審者侵入時の緊急放送」を知ること。 ⑥ 不審者侵入時にとるべき行動を確認すること。 ⑦ 防犯教室の目的を確認し、主体的に参加すること。
I-3 家庭生活での安全	家庭で起こる事故等の危険について理解し、安全に行動できるようにする。	① 家に帰って玄関を開ける前に注意することについて確認すること。 ② 留守番をするときの約束を確認すること。 ③ エレベーターに乗る前と乗るときの「は・さ・み」の約束を確認すること。 ④ 非常階段や屋上など、人目につきにくい場所の危険について知ること。 ⑤ 友達の名前や電話番号などを知らない人から聞かれても応じず、すぐに学校へ連絡すること。
I-4 地域や社会生活での安全	地域・社会で起こる犯罪や危険について理解し、安全に行動するとともに、安全・安心なまちづくりを目指すことができるようにする。	① 一人で行ってはいけない場所を確認すること。 ② 人通りの少ない道や街路灯の少ない場所など「入りやすく、見えにくい」場所を確認すること。 ③ 「いかのおすし」の約束を確認すること。 ④ 「子供110番の家」の場所を確認すること。 ⑤ 夜間の外出で注意することを確認すること。 ⑥ 事件や事故に遭ったら必ず保護者、警察、学校に連絡すること。 ⑦ 地域の犯罪防止活動を知り、自分にできることを考え、実行すること。 ⑧ 山や海・川に行くときに注意することを確認すること。
I-5 スマートフォン・携帯電話等使用時の安全	スマートフォン・携帯電話等を使用するときの危険、SNSに関するトラブルやサイバー犯罪について理解し、安全に利用できるようにする。 <small>〔SNS東京ルール〕(平成31年4月改訂版)を参考に作成</small>	① スマホやゲームの一日の合計利用時間、使わない時間帯・場所を決めること。 ② 必ずフィルタリングを付け、パスワードを設定すること。 ③ 送信前には、誰が見るか、見た人がどのような気持ちになるか考えて読み返すこと。 ④ 個人情報をお教えたり、知らない人と会ったり、自撮り画像を送ったりしないこと。 ⑤ 写真・動画を許可なく撮影・掲載したり拡散させたりしないこと。 ⑥ ながらスマホ・携帯電話の使用は危険なのでやめること。

## 指導を工夫する視点

### (1) 具体的な場面の想定

生活安全における安全教育では、一般的な場面における安全の知識はもとより、児童・生徒等の生活する地域の特徴を踏まえた、より具体的な場面を想定することが大切である。

例えば、安全指導として、児童に日が落ちて暗くなった際の下校の仕方（I-1-①）として、通学路で暗くなる場所について想起させたり、具体的な場所等を提示しながら、「家の近くの友達と一緒に下校しましょう。」と話すなどの工夫が考えられる。

### (2) 短い言葉の繰り返し

特に、覚えさせておきたいことは、短い言葉にして伝えることで効果を高めることができる。

例えば、「は・さ・み」や「いかのおすし」のように頭文字で一つの言葉として伝えることや、それを教室や廊下に掲示することで安全への意識付けを図っていく。

**I-3-③ エレベーターに乗る前と乗るときの「は・さ・み」の約束を確認すること。**

**は** … はいる前は周りをよく見て  
**さ** … さっと乗って、ボタンの前へ  
**み** … みんなで乗ろう、エレベーター

**I-4-③ 「いかのおすし」の約束を確認すること。**

**い**か … ついていかない  
**の** … 車にのらない  
**お** … おお声をだす  
**す** … すぐにげる  
**し** … しらせる

### (3) 教材の活用

生活安全に関する教材として、「地域安全マップづくり～指導マニュアル～」や「SNS東京ルール」などの教材がある。（教材の紹介は、P.104～）

- SNS東京ノート  
 (小学生対象 [1・2年、3・4年、5・6年]、中学生対象、高校生対象)



- 「SNS東京ノート活用の手引(教員用)」もあります。

「SNS東京ノート」や、事例は「とうきょうの情報教育」に掲載している。



SNS東京ノートの活用(特別支援学校中学部)  
 職業・家庭「SNSについて知ろう」

- (本時のねらい)
- SNSについて知る。
  - 「自身や他人の情報を大切にする。」ことを理解する。

導 入	○本時の目標を把握する。
展 開	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「SNS東京ルール」のイラストなどから、電話の対応で困ったことなどをこれまでの経緯を振り返る。</li> <li>○相手の顔が見えない場合は、自分の想像している人とは違う場合があることについて話し合う。</li> </ul>
ま と め	○今日の学習を振り返り、「自身や他者の情報を大切にする。」ことについて考えを発表する。

理論編  
 学校における  
 安全教育と  
 プログラム  
 安全教育で  
 身に付ける力  
 安全教育の  
 3領域  
 必ず指導する  
 基本的事項  
 安全教育の  
 確実な実施の  
 ために  
 安全教育の  
 計画  
 安全教育の  
 評価  
 安全教育の  
 計画例

実践編  
 実践事例  
 生活安全に  
 おける  
 実践事例  
 交通安全に  
 おける  
 実践事例  
 災害安全に  
 おける  
 実践事例  
 一書事例  
 (校種別)

資料編